The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	臨床哲学のメチエ 創刊号 表紙・目次・巻頭言
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 1998, 1, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9061
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Métier de la philosophie clinique

臨床哲学のメチエ

臨床の知のネットワークのために

1998 12 9《創刊号》
大阪大学文学部臨床哲学・倫理学研究室

目次：

巻頭言　中岡成文……1
特集「学校を考える――『不登校』という現象を通して」……2
不登校を語ること――不登校の「私」性　栗田隆子……2
学校という「踏み絵」　畑　英理……9
誰が「なぜ学校に来るのか」に答えられるのか？　寺田俊郎‥12
ディスカッション……17
発表を終えて……25
セクシュアリティに臨む哲学　本間直樹……27
臨床哲学的空間……28

巻頭言――臨床哲学のメチエ――

中岡成文

私たちの研究室（大学院）は、今年度から「臨床哲学」を名乗り、看護・教育の経験者である社会人の方々を受け入れました。臨床哲学の授業（金曜日午後６時より）ではケアや看護のことを中心に議論し、臨床哲学研究会（公開）では教育のテーマを設けてアクチュアルな問題にコミットすることに努めています。それに合わせて、院生の多くは、医療研究グループか教育グループかに属し、臨床哲学の創出・展開にそれぞれの立場から参加しています。本号では、教育グループの活動が中心に報告されていますが、医療研究グループも事例検討に、老健施設の見学にと意欲的に取り組んでいます。

臨床哲学のプロジェクトはまだ始まったばかりです。＜現場＞に出ていくということも、自分なりの＜現場＞を作り出すということも、容易ではありません。でも、これまでの哲学、これまでの大学、これまでの制度的・職業的ケアに安住するのがいやなら、道のないところに道を通していくしかないのです。挑戦的にこういいましょう。真理は＜発明＞されなければならない、と。

（なかおかなりふみ・教授）